



横浜市立大曾根小学校

学校だより

令和6年4月30日

TEL 542-1785

FAX 541-0949

## 新緑が美しい季節を迎えました

～学校教育目標が目指す「自立する子ども」の姿～

校長 宮本 雅司

風薫る爽やかな季節となりました。新年度が始まって一か月が経ちました。お子さんの様子は如何でしょうか。本校に異動してきた教職員から、「どのクラスも落ち着いて生活していますね」との声を聞きました。各ご家庭や地域で大切に育まれている大曾根小の子どもたちが身に付けているよさと、子どもたちの生活を支えている教職員の尽力を感じています。

この4月、大曾根小の教育目標「自立する子ども」について考えさせられた場面が幾つかありました。そのうちの 하나가、6組の子どもたちが自分たちの教室に給食を運ぶ活動をしていた場面です。あるお子さんが、「毎日運ぶから大変」といった話をしていました。重たいのによく頑張っている偉いねと声をかけたのですが、よくよく考えてみると、栄養教諭や調理員に検食を運んでもらっている私より、よほど自立していると感じさせられた一場面でした。今度同じような場面に出会ったら、自分の食事だけでなく、皆のために仕事をしている素晴らしさも伝えたいと思いました。

「自立」は、このような日常生活での自立もあれば、社会、経済面等での自立もあると思います。私たち人間は、日々、公共物や様々な用途をもつ便利な道具を使いながら生活しています。誰にも頼らずに生きていくことを自立とすると、誰も自立できないのかもしれませんが。誰かがいるおかげで、便利な何かがあるおかげで生きていけるような気がします。

4月はこんな場面もありました。クラスの子が先生に、ある子が何人かに意地悪をされているようだと伝えてくれたおかげで、迅速な解決を図ることができた場面です。教師が指導するだけでなく、意地悪をしていた子も、またその保護者の皆さんも、謝りたい等の寄り添う解決策を講じてくれました。「自立」で考えると、共に生きる社会を創るための精神面での自立も大切な気がします。

毎日の暮らしの中で、ときに人の手を借りながら、様々な選択肢の中から大切なことを判断して表現できること。ときに失敗することがあっても、そこから学び、よく考えて自分の人生を築いていくこと。そのような姿が子どもたちにとっての大切な「自立」なのかもしれません。

さて、5月は、個人面談があります。伸びようとする一人一人かけがえのないお子さんの個性や成長、「自立」を踏まえ、保護者と教職員が共に話し合えるよい機会になればと思います。

5月は暑い日も増えることと思います。ご家庭でも学校でも、子どもたちの体調管理に配慮しながら教育活動を進めていきたいと思っています。ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。